

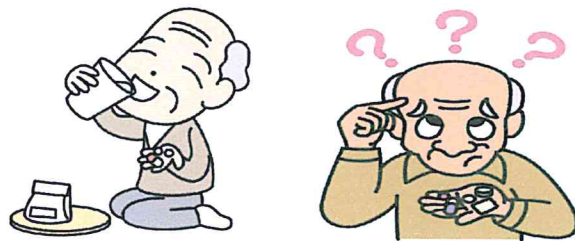
高齢者の お薬手帳

NO. 88



- ◎ 高齢になると体の機能が低下していきます。
- ◎ 慢性疾患や合併症などで、薬の種類が増えていませんか？
- ◎ 飲み合わせが合わなかったりの副作用も高齢者に一番多いといわれています。
- ◎ 内蔵機能が低下し、薬の代謝が悪くなると、体内に飲んだ薬が効きすぎるなど、アレルギーやショック症状、便秘や排尿困難など、いろいろな副作用が起こることがあります。

薬を飲んだら1～2時間位は体に変化がないか十分気をつけましょう。



「お薬手帳」を常にバックの中に持ち歩き活用しましょう。(院外処方箋薬局でもらえます)

- 使用している薬の副作用や相互作用の情報を入れておきましょう。(糖尿病の薬を使用等)(薬剤師だけでなくご自身でも記入できます)
- いつものかかりつけ医療施設や薬局にお出での時は必ず持っていきましょう。(医師や薬剤師が「お薬手帳」の記録チェックをし、新しく処方された薬の飲み合わせや副作用防止チェックをしてくれます)
- 薬局などでは薬剤師が外来や家庭で飲んでいる薬のチェックをし、あなたに合う薬のアドバイスをしてくれます。
- 複数の診療科に罹っている方は、必ず「お薬手帳」を医師に見せて、他の薬との副作用を確認してもらいましょう。
- 救急の時などは「お薬手帳」があると便利です



医療情報の共有化



- **ノンコンプライアンス(服薬の不履行)していませんか？(医師の指示どおり服用しないことを言います)**
ノンコンプライアンスは治療を妨げる大きな要因となります。
- 医師は、患者さんの年齢、体重、症状、検査など総合的に判断して処方箋を出しています。
- 自己判断で勝手に服用しなかったり、量を増減したり、時間を守らなかったりすると、薬の効果がでないばかりではなく、医師もこのことを知らずにいると、効き目が無いと勘違いし、薬の種類を変えたり、薬を増減したりして、副作用の原因にもなります。

指示された薬は指示どおりきちんと服用しましょう。
飲み忘れや症状に変化があった場合も医師や薬剤師にご相談下さい。

